

コロナ禍での最後のトップリーグ

2021年3月14日（日） トップリーグ第4節

三菱重工相模原ダイナボアーズ VS NTTコミュニケーションズシャイニングアークス
相模原ギオンスタジアム 14:00 KO 天候晴れ 観衆3122名



↑黒と緑の大型フラッグ
(SC 相模原と同じ緑×黒)



↑活動終了後の記念撮影
(W 杯ユニの方も)



↑ソーシャルディスタンス
(芝生自由席)

1、昨年のトップリーグ

昨年、神奈川県ラグビーフットボール協会主催のトップリーグは1月25日から2月16日にかけての計5試合でした。ちょうどその頃コロナウイルスは中国・武漢で流行していましたがまだ「対岸の火事」のような風潮でした。選手とのハイタッチ等は中止にされましたが、1万人以上の来場者があり、ラグビーブームはまだまだ続くと思っていました。ところが、ご存知のようにコロナウイルスは日本国内にも拡がりトップリーグは翌週の試合を最後に途中打ち切りという事態になってしまいました。ニッパツ三ツ沢球技場で「昨年のワールドカップのおかげで多くの皆さまにご来場いただきありがとうございます。一人でも多くの方が着席できますように…」と席詰めのご案内誘導をしていたのが遙か昔のようにも感じられました。

2、ホームタウン相模原

三菱重工相模原および相模原ギオンスタジアムのある相模原市は実は私が6年ほど暮らしていた街でもあります。神奈川県内では横浜市、川崎市に次ぐ人口72万の大都市ですが、東京のベッドタウンだけではなく、大型工業団地、標高1500mの丹沢山地、旧津久井郡の過疎地域がある多様性がある都市です。また核となる街がなく、買い物等は隣接の町田市への依存が強く「地域密着」が非常に希薄になりやすい土地柄でもあります。

相模原ギオンスタジアムはJR相模線・原当麻駅から歩いて20分余りの場所で、都心からの通勤圏内ではありますが、郊外なのかどうか中途半端なエリアです。

3、「こまめな消毒をお願いいたします」

今回の募集は「会場設営」と「会場案内」に分かれ、私は「会場案内」でKO4時間前の10時に集合です。受付で過去2週間の健康チェックシートを提出して、ビブスを受け取り控え室へ移動します。まずはラミネートされたポップ看板の貼り付けです。相模原での試合は2試合目で前回の活動者と一緒に「こまめな消毒をお願いいたします」「大きな声でのご観戦は控え下さい」「アルコールはご遠慮ください」といった内容のポップ看板を貼りました。昨年からはほとんどの試合会場でこのようなポップが貼られていると思います。その後キッチンカー出店業者の牛丼店の牛丼のお弁当をいただきました。余談ですが活動時に温かいいただいたのは初めてのようです。

4、緊急事態宣言発令時を忘れるかのようなひととき

KOの90分前に開門になるため、各自担当のゲートの配置につきます。私は南側芝生自由席の巡回担当で「密にならない誘導」「折り畳み椅子使用者や飲酒者がいないか」「混雑してきたら北側への誘導」を行ないました。来場者のマナーは良く折り畳み椅子使用者に声掛けをする程度でした。芝生席なので誰と一緒に来ているかが良くわかり観察していると親子連れやご年配の方が多く、女性と10代20代の男性の割合が少ないと感じました。去年は20代の女性の姿をよく見かけましたが、今日の試合は2019年のラグビーW杯で活躍した選手もいなく、コロナウイルスの影響でラグビー人気落ちてしまったのではないかともしました。

神奈川県内は正月明けからの緊急事態宣言発令中で当日も104名の新規感染者が発表されました。スタジアムは野外ということもあり、どことなくのどかな雰囲気でした。ラグビーにさほど興味がない方でもピクニック気分では少しはコロナ禍であることを忘れて気分転換にもなったのではないのでしょうか？

5、新リーグに向けて

トップリーグとしては今シーズンが最後で来シーズンからは新リーグとしてスタートすることが決まっています。一昨年まで神奈川県主催でのトップリーグの試合は協会関係者のみで試合運営を行っていたようですが、去年は多くの来場者が予想されることから、横浜市ボランティアセンターにボランティア募集の情報提供を依頼し、全国のトップリーグにボランティア制を導入したいと語っていました。新リーグがどのようになるかわかりませんが、新リーグでもまた活動ができればいいなと思い、トップリーグ旗をポールのロープから下げ桜開花を目前にした相模原をあとにしました。